

市政ニュース

男女が共に健やかで心豊かに暮らせる

「男女共同参画社会」推進事業を展開

市では、男女が共にあらゆる分野に参画し、個性と能力を十分発揮できる「男女共同参画社会」づくりを進めています。本年度は、地域と職場での推進に重点を置いて事業を展開しています。



▲役割分担して調理

11月17日、モデル地区の山本区(豊岡地域)が「お父さんの料理教室」を田鶴野地区公民館で開催しました。お父さんたちの料理経験はさまざま。お母さんたちの助けも受けながら、見事料理が完成。子どもたちも試食会の準備を手伝い、参加者全員で楽しく会食

をしました。さらに、12月9日には出前講座を受講し、男女共同参画について学習しました。

また、土居区では10月23日に出前講座を受講し、理解を深めました。12月15日には、同区生きがいサークルが中心となり、3世代交流「餅つき大会」を開催。子どもたちも餅をつき、多くの区民でにぎわいました。

■企業セミナー

11月21日、「男女共同参画社会推進企業セミナー」を豊岡市商工会館(日高町日置)で、豊岡市商工会女性部日高支部との共催で開催しました。参加者は、「仕事」と「生活」のバランスをうまく取るために、働く女性を取り巻く状況やストレスマネジメントなどの講義を受けました。また、ストレッチを行う、感想を話し合いました。

第14回米・食味分析鑑定コンクール国際大会で

「コウノトリ育む農法」のお米が「特別優秀賞」を受賞

「コウノトリ育む農法」で栽培した米が、米・食味分析鑑定コンクール国際大会(米・食味鑑定士協会主催)の栽培別部門(若手農業経営者部門)で特別優秀賞(第2位)を受賞しました。

11月28日、受賞者の青山直也さん(日高町山田)が中貝市長を訪問し、報告しました。

農業者の高齢化が進み、後継者不足などの課題がある中で、青山さんのような若手農業者の活躍が期待されます。



▲中貝市長に受賞報告した青山直也さん(左)

また、今回の受賞は、青山さんはもちろん、「コウノトリ育む農法」に携わる多くの生産者の取組みが評価されたものと考えられます。市も「コウノトリ育む農法」の普及拡大に努めます。

降雪シーズン到来!

豊岡市除雪隊発隊式を挙行

11月30日、総合体育館東側駐車場で豊岡市除雪隊発隊式を行いました。

式には、本庁の除雪隊員(都市整備部職員)が参加し、除雪車の前で中貝市長から訓示を受けました。

市長は「心に余裕を持って、懇切丁寧に除雪に当たり、市民の生活を支えてほしい。私たちは市民の生活を守ること



▲中貝市長から訓示を受ける除雪隊

が使命である。健康と安全に注意しながら、頑張ってほしい」と激励しました。

主な市政の動き

〔11月〕

- 14日・市政懇談会(出石地域、15日・日高地域、16日・竹野地域、19日・城崎地域、20日・但東地域、21日・豊岡地域)

- 19日・豊岡市事業承継支援ネットワーク設立
- 22日・豊岡市環境経済シンポジウム
- 25日・とよおか景観フォーラム2012
- 29日・豊岡市消防本部年末警戒発隊式
- 30日・豊岡市議会開会(12月26日)

〔12月〕

- 1日・食と農を考える市民フォーラム2012
- 2日・東日本大震災被災地支援ツアー(4日)
- 4日・第33回兵庫神鍋高原マラソン全国大会写真コンテスト入賞作品巡回写真展(8月23日)
- 6日・新潟県三条市への避難者支援募集(14日)
- 7日・第1回豊岡市公営企業審議会

私たちは人とコウノトリが共に暮らせる「豊岡らしい風景」を守り育てます 「とよおか景観フォーラム2012」〜豊岡にある「ふるさと」の風景〜を開催

11月25日、「とよおか景観フォーラム2012」を出石永楽館で開催しました。

豊岡の歴史、伝統、文化、生業が生み出す「豊岡らしい風景」

は先人から受け継いだ大切な資産です。このフォーラムは、これら固有の風景を将来にわたって保全・創造するために、豊岡らしい風景の価値を共有し、景観形成への理解を深めることを目的としたものです。

オープニングは、赤野太刀振保存会(但東町中山)の「太刀振り」が披露され、その後、「とよおか景観大賞」の表彰を行いました。

また、「豊かな自然と人々がおりなす集落景観」と題して、明石工業高等専門学校准教授の工藤和美さんに講演いただきました。

さらに、「地域の環境を次世代に引継ぐために」をテーマ

に、工藤和美さん、大阪大学大学院准教授 小浦久子さん、京都府立大学准教授 上杉和央さん、田久日区長の永田新一さん、高龍寺副区長の小牧伸典さんによるパネルディスカッションを行いました。



▲パネルディスカッションの様子

「玄さん」のように元気いっぱい、良い年でありませうように〜

「玄武岩の玄さん」の2013年賀状用イラストを作成



川崎尚之助(出石藩出陣)とその妻山本八重(キキラスト 豊岡市マスコット玄さん)

市マスコット「玄武岩の玄さん」の年賀状用イラストが完成しました。

今回は、2013年のNHK大河ドラマ「八重の桜」にちなみデザインです。

「八重の桜」のヒロイン「山本八重」の最初の夫「川崎尚之助」は、出石藩(出石町)出身です。蘭学と理化学を修めた若くて有能な洋学者であり、その義侠心あふれる熱い心が玄さんと共通することから、この2人を結び付け、また、それらを育んだ豊岡市の魅力を広く全国にPRすることを目的として作成しました。

人情にあふれる温かいまち「豊岡」を多くの方に知って

ただくためにも、年賀状以外にも使ってください。

イラストは、市ホームページからダウンロードでき、誰でも自由に(営業目的以外)使用できます。



川崎尚之助(出石藩出陣)とその妻山本八重

中貝市長の徒然日記 ⑥

被災地への旅 (四)

「救援のための物やお金はもう要らない。それは自立を妨げる。そんなことより、観光に来てほしい。商品を買ってほしい。忘れないでほしい」今年7月、被災地のニーズを探るため、職員を南三陸町に派遣しました。その報告です。

12月のツアーを募集したところ、40人の定員がすぐいっぱいになりました。私も参加しました。海辺のホテルに泊まり、仮設商店街で食事をし、買い物をするツアーです。

南三陸の佐藤町長の話も聞きました。「海の近くに町民グラウンドがあった。地盤沈下で水に浸かっている。安全のため、高台に移転させた。しかし、国は、復旧は同じ場所が原則だと認めていない」この1年9カ月、こんなことの繰り返しだった。何度か何度か大臣や政治家がやってきて、そのたびに要望をしたが、何も変わらない。被災地は、こんなことでも

闘っています。

語り部の話も聞きました。防災庁舎で、遠藤未希さんはマイクを持ち続けた。「異常な潮の引き方です!高台に逃げてください!」途中で割って入った声。「遠藤君、もうやめろ!」放送は男性の声に変わった。「早く逃げろ!」危機管理課長補佐の三浦毅さんの声だった。しばらくして、三浦さんの部下と思われる別の男性の声。「もうやめてください!」「いや、もう一回言わせて!」その数秒後、「ガガ」という音。津波が襲った。遠藤さんと三浦さんは、まさに殉職だった。

バスの中で、会議室で、込み上げてくる感情を抑え、それでも抑えきれずに顔をくしゃくしゃにして話し続ける語り部の鴻巣さん。語る事ができるようになるまでに、一体どれほど心の葛藤と苦しみがあったのか。自身との闘いのような語りでした。時として涙を流し、心を痛め、怒り、そして人間の素晴らしさに感動しながらの旅でした。